

No. 1230

スーパーカー・フェスティバル

— 東京・後樂園 —

ランボルギーニ・カウンタックLP 500 S、フェラーリデイトナSP、スーパーカー・ファン待望の世界のドリーム・カーが8月7日から3日間、東京後樂園球場に姿をあらわした。人気絶頂のスーパーカー、入場料1000円也もなんのなんの、人工芝の上はカメラを持った子供たちで超満員。特にレーザーと一緒に話をしたり、車に乗れると新車のサービスがあったせいか子供たちはあちら、こちらと暑さを忘れて走り廻る。幸運にもスーパーカーに乗れた子供たちは「やっぱり素晴らしいや」「スピード感が全然ちがう」「背中が吸い込まれるようだ」などと興奮気味。子供たちの夢の車、スーパーカー・ブームはまだまだ続きそうだ。

離島の夏

— 東京・神津島 —

南海の浮ぶ太陽の島、神津。今夏の観光シーズン真盛りで連日、ジンベイとビキニ姿の若者たちの集団が押し寄せている。島の西部の急な斜面に部落は寄りそう様にある。昭和40年代から始まった離島ブームで島は変り、長い苦難の歴史から村は脱出した。港の網より小屋で働く島の老人は、「島でいちばん感ずることは内地との交流で道路もできたし家も立派になった…」。更に島を変えたのは4年まえに持ち上った飛行場建設計画。部落に多額の買収代金が流れ込んだことだ。市場に毎朝若い夫婦がやってくる。魚屋を営む松本和男さん(29才)と、奥さんのよう子さん(26才)だ。二人は5年前夏の観光が縁で結ばれた。都会生活にあこがれる島の女性に代って「離島ブーム」で島にお嫁に来た女性は100人を越すという。ようさんは「いろいろ問題はありましたが私はやっぱり幸せです」。都会から来た嫁さんについて島の若者は「苦勞を知らないというか、甘たれている。何かいやな事があれば帰ってしまう」。夏の離島は美しい。しかしそのかげには村のきびしい生活があるようだ。